

科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
教育心理学特論	講義	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	三枝 正雄
授業の到達目標	1. 教育は、個人の心身の成長と能力の発達に大きく寄与することを習得する。 2. 集団の心理が個人の心理に影響することを理解する。 3. 全ての人が等しく教育を受ける義務と権利があることを知る。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	心理学を個々人の心の中に捉え、自己の成長が知的好奇心を深め、多くの知識や知恵が獲得できる授業とする。ICTを活用しテーマに沿った文献検索を行う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	ICT活用による文献検索について				
	2	学習過程としての認知過程を理解する				
	3	学習の理論と学習の情報処理論				
	4	学習指導の理論と個に応じた指導				
	5	視聴覚教育とマルチメディア学習（1）				
	6	視聴覚教育とマルチメディア学習（2）				
	7	教育評価の方法とテスト				
	8	脳の発生と神経回路の形成				
	9	パーソナリティの理論と適応				
	10	知能検査の概要と種類				
	11	グループワーク：子どもの心理的問題を事例から考える（1）				
	12	グループワーク：子どもの心理的問題を事例から考える（2）				
	13	スクールカウンセラーの役割				
	14	観察法/実験法/調査法/事例研究法/テスト法				
15	子どもと環境のアセスメント					
授業の評価	「レポート」：毎回のレポート提出（70%） 「平常点」：授業態度（30%） 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深める。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	予習を基に積極的に授業に参加すること。					
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、授業中に紹介する。					
その他	【オフィスアワー】 随時					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容特論	講義	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	澁田 陽子
授業の到達目標	1. 「子どもたちの創造性を豊かにする」ために相応しい保育現場での幼児の生活や保育者の役割を理解する。 2. 保育全体をとらえる中で、「子どもたちの創造性を豊かにする」指導や援助法を作成する能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	幼稚園教育要領や保育指針に記載されている「創造性を豊かにする」に焦点をあて、授業を通して、指導法、援助法を学ぶ。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	幼児教育の基本を、現場での実践をディスカッションを含めながら、理想と現実を考える。				
	2	社会性を育てる表現遊びを考える				
	3	社会性を育てる表現遊びを体験する				
	4	心を育てる表現遊びを考える				
	5	心を育てる表現遊びを体験する				
	6	創造力を育てる表現遊びを考える				
	7	創造力を育てる表現遊びを体験する				
	8	感覚や気づきを育てる表現遊びを考える				
	9	感覚や気づきを育てる表現遊びを体験する				
	10	1回目から9回目の授業を基に、表現教育を考案し発表、ディスカッションを行う。				
	11	応答的保育の理論について学ぶ。				
	12	子どもとの言葉を通しての教育について学ぶ。				
	13	体を育てる表現遊びを考える				
	14	体を育てる表現遊びを体験する				
15	これからの保育方法について、考えあう。					
授業の評価	「試験」：期末試験（20%） 「平常点」：毎授業ごとに配布するミニレポート（40%） 「その他」：発表（40%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	配布した資料を読み込んでおく。1人1回、保育内容について発表を行う					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	積極的に参加してください					
テキスト	『誰にも聞けなかった！保育者のいろいろお悩み相談』 徳田克己監修・水野智美著/文；西村実穂著/文 中央法規出版					
参考書	『保育の表現技術実践ワーク』今井真理編著（保育出版社） 『応答的保育』宮原和子・宮原英種 ナカニシヤ出版					
その他	【オフィスワーカー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
幼児理解特論	講義	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	岩谷 恵利子 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 幼児の内面に湧き起こる様々な感情に目を向け、表出する行動を検討し、幼児理解を深める。 2. 幼児一人ひとりの特性を理解し、個に応じた指導のあり方を学ぶ。 3. 幼児の年齢の違いによる育ちや課題を理解し、年齢に応じた具体的な保育実践方法を学ぶ。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び、実践力を習得している。					
授業の概要	幼稚園教諭の専門性としての幼児理解のあり方を身につけるために、観察の視点、記録の仕方、保育計画等について、講義やグループ討議を通して解説し検討・分析・考察を行う。また、映像によるカンファレンスやロールプレイを行うことにより実践力を高める。さらに、レジュメ・レポートを作成して発表し、検討・分析・考察を深めるという形式で授業を行う。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	環境を通しての教育と子ども理解				
	2	子ども理解とは				
	3	子どもの発達する姿をとらえる				
	4	子どもを「みる」ということ				
	5	事例から学ぶ①				
	6	事例から学ぶ②				
	7	事例から学ぶ③				
	8	ドキュメンテーション作成				
	9	グループワーク：ドキュメンテーションを通して考える				
	10	グループワーク：ドキュメンテーションを通して考える				
	11	子ども理解の方法				
	12	子ども理解にもとづく保育者の援助				
	13	子ども理解と評価				
	14	子育て支援と保育相談				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」：筆記試験 (60%) 「平常点」：レポートその他提出物 (30%) 「その他」：授業への取り組み (10%)					
課題(レポート等)のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 復習：各回授業のテキスト、参考書、配布プリント等を通読し授業内容について理解を深める。 授業の主要な内容についてレポートの作成、提出を求めることがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 (135分) 事後学習 (135分)					
履修上の注意	各回の授業内容について、自分なりの課題をもって臨むこと。授業計画は、学外での保育実践の状況と合わせて変更する場合がある。					
テキスト	『子ども理解と保育実践』塚本美知子 編著 萌文書林					
参考書	必要に応じて提示する。					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育学研究Ⅰ	演習	2	1年次 前期	選択		中重 直俊 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 文献を通して、遊びの本質について理解を深め、専門性を高める 2. 子どもを観察し、目的に応じて多様な記録を取ることができる 3. 乳幼児期の子どもにおける現状を理解し、考察を深めて検討することができる					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	この授業では、園での子どもの遊びをどう理解するか、どう保育を構想するかについて明らかにし、遊びについての理解を深め、専門性を高めることを目的とする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	遊びを中心とした保育とは				
	3	子どもの遊びを理解する				
	4	子どもの遊びを援助する				
	5	保育に生きる記録とは				
	6	保育記録のなかの計画性				
	7	育ち合う子どもと保育者				
	8	行事のとらえ方と指導				
	9	子どもと保育者が織りなす生活				
	10	遊びの意義				
	11	総合的な学びを保障する				
	12	保育者の役割				
	13	観察法について				
	14	エピソードをもとに討論する				
15	まとめ					
授業の評価	「試験」：筆記試験（50%） 「平均点」：出席状況、授業態度（40%） 「その他」：課題（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	予習：毎回、次回使用するテキストを配布するので、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業内容についてまとめておく。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	必ずテキスト、配布資料を持参すること。					
テキスト	『遊びを中心とした保育』 河邊貴子 編 萌文書店					
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』					
その他	【オフィスワーカー】水曜の昼休み 中重研究室					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育学研究Ⅱ	演習	2	1年次 後期	選択		中重 直俊 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 保育・幼児教育の歴史的な展開と特質を時代的な背景を交え理解し、説明できる 2. 乳幼児期の子どもにおける現状を理解し、考察を深めて検討することができる 3. 子どもを観察し、目的に応じて多様な記録を取ることができる					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	この授業では、保育・幼児教育に対する認識や取り組みを歴史的に読み解き理解を深め、現代の保育・幼児教育をめぐる問題を考察することを目的とする。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	諸外国の教育思想				
	3	諸外国の教育の歴史				
	4	日本の教育思想・歴史				
	5	海外の幼児教育から考える (1) 取り組みの比較を通して				
	6	海外の幼児教育から考える (2) 保育者に視点をあてて				
	7	現代の保育・幼児教育をめぐる現状				
	8	中間まとめ				
	9	現場から学ぶ (1) 保育所				
	10	現場から学ぶ (2) 幼稚園				
	11	現場から学ぶ (3) 幼保連携型認定こども園				
	12	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える (1) 子どもの遊びと活動				
	13	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える (2) 環境構成に着目して				
	14	実際の取り組みから保育・幼児教育を考える (3) 保育者の役割				
15	学生のプレゼンテーションによる振り返りとまとめ					
授業の評価	「試験」：筆記試験 (50%) 「平均点」：出席状況、授業態度 (40%) 「その他」：課題 (10%)					
課題 (レポート等) のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	毎回、課題を出すので、次回までに課題を行なって授業に臨むこと また、授業内容についてまとめておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習 (135分) 事後学習 (135分)					
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること					
テキスト	『保育の学び ファーストステップ』 瀧川光治 編 青踏社					
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説』					
その他	【オフィスアワー】 水曜の昼休み 中重研究室					

科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
発達心理学特論	講義	2	1年次前期	選択		三枝 正雄
授業の到達目標	1. 発達段階で生じる心理的問題に関わる要因を理解する。 2. 発達の变化を段階別に理解し、その変化の特徴と社会的環境との関連性を考える。 3. ICTを活用し発達に関する新たな知見を知る。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	受胎から死に至るまでさまざまな年齢での心理的問題についての現象や仮説を学習する。また、心理的問題に及ぼす要因について探究する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	発達という言葉の意味				
	2	多様な性と現代社会				
	3	ディベート形式によりいじめの現状を考える				
	4	精神疾患の現状				
	5	日本における自殺の概要				
	6	ディベート形式により子どもの発達のみずきについて考える				
	7	ディベート形式により幼児期の子どものPTSDを考える				
	8	ディベート形式により激変した子どもの環境を考える				
	9	胎児期・新生児期の重要性と問題点				
	10	乳児の豊かな能力				
	11	ディベート形式により幼児期の発達の外観を考える				
	12	身体と運動能力の発達				
	13	子どもから大人への移行期として				
	14	成人期前期の発達課題				
15	ディベート形式により発達心理学を学ぶ意義を考える					
授業の評価	「レポート」：毎回のレポート提出 (70%) 「平常点」：授業態度 (30%) 「その他」：					
課題(レポート等)のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別または全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：該当箇所の通読を行うこと。 復習：授業後の内容の見直しと理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分) 事後学習(135分)					
履修上の注意	予習を基に積極的に授業に参加すること。					
テキスト	資料を配布する。					
参考書	適宜、授業中に紹介する。					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
児童家庭福祉特論	講義	2	1年次 前期	選択		吉田 隆三
授業の到達目標	1. 児童憲章、子どもの権利に関する条約から児童の権利について理解する。 2. 児童家庭福祉の理解を深め、子どもとその家族が必要とする具体的な援助の方法を身につける。 3. 児童家庭福祉に関連する法律・制度・施設・機関等の社会的支援の状況を知り、さらに他の社会資源との連携・協調して、問題解決に導く能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	家庭での児童養育を支援する必要性についての理解を深め、児童家庭福祉実践に必要な知識と技術について概説する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	現代社会の子どもと家庭の状況について				
	2	子どもの権利と権利擁護について				
	3	諸外国と日本の児童家庭福祉について				
	4	児童福祉法、その他児童関連法について				
	5	児童家庭福祉行政と実施機関、施設について				
	6	子育て支援サービスと児童健全育成施策について				
	7	母子保健の理念とサービス実施と体系について				
	8	保育所と待機児童、保育サービスについて				
	9	児童虐待、DVについて				
	10	社会的養護の状況と今後の動向、課題について				
	11	ひとり親家庭の現状と生活状況、福祉サービスについて				
	12	障がい児の定義と現状、福祉サービスについて				
	13	情緒障がいの定義と対応、非行少年の法制度とその対応について				
	14	児童家庭福祉にかかわる専門職とその専門性について				
	15	まとめ、ふりかえり(グループ発表)				
授業の評価	「試験」：筆記試験（50%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（30%） 「その他」：レポート等提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 レポート等の課題はコメントを付して返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。 毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	自らの学習に対して、意欲的に取り組むこと					
テキスト	『保育と児童家庭福祉』 櫻井奈津子編 みらい 『保育福祉小六法』 保育福祉小六法編集委員会編 みらい					
参考書	必要に応じて随時紹介する。					
その他	【オフィスアワー】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
社会福祉特論	講義	2	1年次 後期	選択		吉田 隆三
授業の到達目標	1. 社会福祉学の基本的概念について理解し、説明できる力を身につける。 2. 社会福祉の専門性と専門職について理解する。 3. 現代社会福祉学の課題を発見し、解決に向けて考える能力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	社会福祉の形成過程、先人の社会福祉学研究対象と研究方法論について学び、現代社会福祉学について概説する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	生活課題と社会福祉について				
	2	社会福祉の概念と保育と社会福祉の関係について				
	3	欧米と日本の社会福祉のあゆみについて				
	4	社会保障の概念と体系（社会保険、公的扶助）について				
	5	高度経済成長と社会福祉六法の成立について				
	6	福祉の行政機関と福祉の財源について				
	7	社会福祉施設の目的と運営について				
	8	子どもの権利条約と保育制作の動向について				
	9	社会福祉の専門職と専門性、倫理について				
	10	相談援助の原則とその動向について				
	11	日常生活自立支援事業と第三者評価について				
	12	権利擁護と苦情解決のしくみについて				
	13	地域福祉の理念と方法について				
	14	ネットワークの重要性と方法				
	15	社会福祉専門職としての保育士のあり方について				
授業の評価	「試験」：筆記試験（50%） 「平常点」：授業態度、講義ノート（30%） 「その他」：レポート等提出物（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。 レポート等の課題はコメントを付して返却する。					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストや参考書の該当箇所を通読し、各回の授業内容の概要を把握しておくこと。 毎時間、次回授業の主要な内容について予習を課す。 復習：テキスト、参考書、配布プリント等を通読し、各回の授業内容について理解を深めておくこと。毎授業後に復習を求める。その際、レポートを課すことがある。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	自らの学習に対して、意欲的に取り組むこと					
テキスト	『保育と社会福祉』橋本好市編 みらい 『保育福祉小六法』保育福祉小六法編集委員会編 みらい					
参考書	必要に応じて随時紹介する。					
その他	【オフィスアワー】授業の前後					



科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
子どもと生活	演習	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	山本郁子
授業の到達目標	1. 今日の乳幼児、児童を取り巻く生活環境について様々な角度から理解する。 2. 学習指導要領をもとに生活科の目標や学習内容を理解する。保・幼・小の保育・教育に連続した生活習慣に対する理解を深める。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力をを修得している。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の子どもたちを取り巻く社会問題、学校現場の状況や子どもの様子を把握するとともに幼児教育と小学校教育との連続性を踏まえた体験的な活動の必要性について学ぶ。</li> <li>・昭和初期の子どもたちの家庭における役割を民具を使って、香寺民族資料館館長による体験学習で学ぶとともに、現代の子どもたちの生活を見つめ直す。</li> </ul>					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・子どもの生活実態を考察、課題を検討				
	2	情報化社会における乳幼児の生活				
	3	子どもの理想的な生活リズム				
	4	保・幼・小の連続した生活習慣				
	5	幼児教育からみた生活科とは				
	6	生活科の実践① 生活の中の化学			(体験学習)	
	7	生活科の実践② 野外で生活			(体験学習)	
	8	実践のプレゼンテーション				
	9	昔の暮らしから学ぶ① 穀物を粉にする		ゲストスピーカーによる講演		
	10	昔の暮らしから学ぶ①				
	11	昔の暮らしから学ぶ② 稲作の栽培・収穫過程を学ぶ				
	12	昔の暮らしから学ぶ②				
	13	昔の暮らしから学ぶ③ 衣服の歴史。綿を作り、綿糸から布に				
	14	昔の暮らしから学ぶ③				
15	まとめ：					
授業の評価	「試験」：レポート試験 (40%) 「平常点」：授業態度、学習意欲、プレゼンテーション・レポートの完成度 (60%) 「その他」：					
課題(レポート等)のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>・授業内容等に関する質問については、個別又は、全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自計画的に取り組む。</li> </ul> 予習：低学年の子どもの発達特性に関する書籍に目を通しておくこと。 常に、子どもにとって日常生活の中で教材になりそうな自然環境に関心を持つ。 復習：授業内容についてまとめておく。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分) 事後学習(135分)					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外活動授業に対する意欲的な姿勢、学生としてのマナーを重視する。</li> <li>・欠席の無いよう自らの学習に対して意欲的に取り組むこと。</li> </ul>					
テキスト	資料を配布する。					
参考書	『幼稚園教育要領解説』文科省 『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領 生活編』					
その他	【オフィスワーカー】授業の前後					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
図画工作演習	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	佐藤 栄悟
授業の到達目標	1. 造形教育において自らの目的を見出す。 2. 目的を持って自らの研究に取り組む。 3. 他者との違いを受け入れる。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	造形表現を自分で考察し、保育の現場に応用できるようにする。 造形美に対して湧き起こる内的感動を基調とした共創的授業。ICT活用授業。 自分なりに造形教育のビジョンを持って研究に取り組む。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	素材研究 ①				
	2	素材研究 ②				
	3	素材研究 ③				
	4	素材研究 ④				
	5	素材研究 ⑤ 発表				
	6	表現研究 ①				
	7	表現研究 ②				
	8	表現研究 ③				
	9	表現研究 ④				
	10	表現研究 ⑤ 発表				
	11	修了研究 ①				
	12	修了研究 ②				
	13	修了研究 ③				
	14	修了研究 ④				
15	修了研究 ⑤ 発表					
授業の評価	「試験」：課題 (60%) 「平常点」：授業参加度 (40%) 「その他」：					
課題(レポート等)のフィードバック	個々の課題はGoogleクラスルーム上で提出し、フィードバック(点数やコメント等)はそこで行う。 また、プレゼンテーションの教員及び学生のフィードバックは、その都度Googleフォーム等で行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：授業概要を把握しておくこと。授業外学習が必要な場合は事前に行い、準備しておくこと。 復習：授業の資料をGoogleクラスルームに配布するので、理解を深めておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習(135分) 事後学習(135分)					
履修上の注意	制作の記録をつけること。必ず用具や材料を忘れないこと。 課題作品の提出期限を守ること。汚れても困らない服装で臨むこと。					
テキスト						
参考書	『造形芸術の基礎』 ヨハネス・イッテン著 手塚又四郎訳 美術出版社 『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』 溝上慎一・成田秀夫編 東信堂					
その他	【オフィスアワー】水曜の昼休み 造形準備室					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容研究「人間関係」	演習	2	1年次 前期	選択	幼一種免選択	中重 直俊 (実務家教員)
授業の到達目標	1、領域「人間関係」のねらいと内容、保育実践上の配慮について理解を深める 2、人とかかわる力をはぐくむための保育方法を考えることができる 3、人とのかかわりを育む遊びの重要性を理解する。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	子どもは生活の中で、人とのかかわりをどのような過程を経て発達させていくのか、また、それを支える保育者の援助はどうあるべきなのか等、「人間関係」領域の理解を深めていく。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	「人間関係」とは				
	2	幼稚園教育要領・保育所保育指針の基本				
	3	自分を知る				
	4	生態学的環境として関係をとらえる				
	5	乳児の保育所における人とのかかわり				
	6	保育者が居場所一ものを「欲張る」ことにも意味がある				
	7	自己主張と自己抑制—幼児期の「なかよし」とは?				
	8	園生活の充実感を支えるもの				
	9	かけがえのない一人一人の存在				
	10	保育者の援助と言動				
	11	道徳性・規範意識の芽生え				
	12	協同する体験を重ねること				
	13	特別なニーズをもつ子ども				
	14	小学校へつなぐ				
15	質の向上に向けて					
授業の評価	「試験」：筆記試験（50%） 「平均点」：出席状況、授業態度（40%） 「その他」：課題（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	予習：テキストの該当箇所を通読し、授業内容の概要を把握しておく。 復習：授業内容についてまとめておく。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	必ずテキストを持参すること。					
テキスト	『社会情動的スキルを育む 保育内容人間関係』 無藤隆 編 北王路書房					
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』					
その他	【オフィスアワー】水曜の昼休み 中重研究室					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育内容研究「表現」	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	澁田 陽子
授業の到達目標	1. 音楽表現のための基礎理論を習得する。 2. 基礎的な音楽理論に基づいた表現のための応用力を身につける。 3. 保育現場でのより具体的な音楽表現の可能性と実践力を養う。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	保育現場を念頭に置いた音楽表現の実践的な展開能力の育成を目標とする					
授業計画	回数	授業内容				
	1	保育内容領域「表現」について幼稚園教育要領「保育内容表現」を読み取る。				
	2	子どもの発達と音楽表現活動について子どもの発達の過程と音楽表現の関係性を学ぶ。				
	3	乳幼児の「わらべうた・あそびうた」の意義				
	4	「わらべうた・あそびうた」の実践				
	5	保育現場における音楽表現の実際「季節のうた」				
	6	保育現場における音楽表現の実際「生活のうた」				
	7	小学校との接続における音楽表現活動の研究 学習指導要領「音楽」を研究する。				
	8	総合的な表現活動の研究 (1) 指導案と指導計画を立案する				
	9	総合的な表現活動の研究 (2) 指導案の確認と検証 立案した指導案を発表する。				
	10	総合的な表現活動の研究 (3) 音作り グループワーク				
	11	総合的な表現活動の研究 (4) うたづくり グループワーク				
	12	総合的な表現活動の研究 (5) 斉唱時の伴奏方 講義				
	13	総合的な表現活動の研究 (6) 斉唱時の伴奏方 実践				
	14	総合的な表現活動の研究 (7) リトミックとは				
15	総合的な表現活動の研究 (8) リトミックの実践					
授業の評価	「試験」：発表（30％）、試験（50％） 「平常点」：授業態度・意欲（10％） 「その他」：提出物（10％）					
課題（レポート等）のフィードバック	授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	幼稚園教育要領「保育内容表現」を熟読しておくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	個性豊かなグループ発表を期待している。					
テキスト	『誰にも聞けなかった！保育者のいろいろお悩み相談』□ 徳田克己監修・水野智美著/文；西村実穂著/文 中央法規出版□					
参考書						
その他	【オフィスアワー】授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
保育実践研究 I	演習	2	1年次 後期	選択	幼一種免選択	林 幹士
授業の到達目標	1. 乳幼児期から学童期の子どものあそびを通して、子どもにどのような力が育つのかを説明することができる。 2. 保育活動におけるあそびの意義について修得する。 3. 季節ごとのあそびについて理解する。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を修得している。					
授業の概要	子どものあそびを調査する。調査したあそびから子どもにどのような力が育つのかについて検討する。 あそびの意義について学ぶ。季節ごとのあそびについて調べる。あそびの指導案を作成する。 あそびを実践して、エピソードを記述する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	あそびの紹介				
	3	エピソード記述について				
	4	あそびの調査				
	5	あそびの指導案作成				
	6	春のあそびの事例研究				
	7	春のあそびの実践				
	8	夏のあそびの事例研究				
	9	夏のあそびの実践				
	10	秋のあそびの事例研究				
	11	秋のあそびの実践				
	12	冬のあそびの事例研究				
	13	冬のあそびの実践				
	14	あそびに関するレポート作成				
15	あそびレポート発表会					
授業の評価	「試験」： 「平常点」： 「その他」：あそびの指導案（20%）・あそびに関するレポート（60%） あそびレポート発表会（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	あそびの指導案やあそびに関するレポート作成において、アドバイスをを行う。					
事前・事後の学習等の内容	事前学習：テキストからあそびについて調査しておくこと。 事後学習：授業のポイントをまとめていくこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	積極的に文章を記述することを求めます。					
テキスト	『遊びの指導』 幼少年教育研究所（編著） 同文書院					
参考書	授業時に適宜紹介する					
その他	【オフィスアワー】 随時					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
体育演習	演習	2	1年次 後期	選択		小寺 隆志
授業の到達目標	1. 保育としての体育プログラムの立案、実施することができる。 2. 段階的指導及び展開方法を学び、指導実践により指導技術および技能を身につける。 3. 実際の現場に見立てた計画を立てる指導力を身につける。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	幼児期の運動遊びに携わる保育者が保育現場で、プログラムを立案し、実践できるように必要な基本的な知識や技能を修得する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション・アイスブレイク				
	2	幼児期の発育発達を理解（運動・認知・情緒）				
	3	運動の分解と段階的指導				
	4	運動技能と運動遊びの立案と実施（歩く・走る・跳ぶ）				
	5	運動技能と運動遊びの立案と実施（まわる・ぶらさがる・よじのぼる）				
	6	運動技能と運動遊びの立案と実施（押す・引く・支える）				
	7	運動技能と運動遊びの立案と実施（くぐる・はう・ころがる・バランスをとる）				
	8	運動技能と運動遊びの立案と実施（身をかかわす・投げる・ころがす）				
	9	運動技能と運動遊びの立案と実施（つく・ける・とる・まわす）				
	10	運動技能と運動遊びの立案と実施（動きの表現・リズムに合わせる）				
	11	集団あそびの立案と実施				
	12	ルールのある遊びの立案と実施				
	13	サーキット運動の立案と実施				
	14	45分の運動遊びの立案と実施				
15	45分の運動遊びの立案と実施					
授業の評価	「試験」：指導実践試験（30%） 「平常点」：授業態度及び取り組む意欲（50%） 「その他」：指導案（20%）					
課題（レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了時に、振り返りシートを記入し、提出する。 振り返りシートは次回の授業時に返却する。 授業内容に関する質問は、全体に向けて回答する。必要に応じて、個別に回答も行う。					
事前・事後の学習等の内容	予習：基本的な生活習慣を整える。特に、食事、睡眠などに気をつけ体調管理を心がける。 次回の授業内容を把握し、主な運動遊びを予習しておくこと。 復習：返却された振り返りシートを元に、気づきや学びを定着させること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を受ける態度や姿勢を評価する。授業態度が著しく悪い場合は、退場を命じることがある。</li> <li>・安全に授業ができるよう。ピアス、ネックレス、つけ爪、時計等の装飾品は外して受講する。</li> <li>・運動にふさわしい服装（ジャージ）と靴（スニーカー）を着用し受講する。</li> <li>・各自で水分およびタオルを用意する。</li> <li>・各自で貴重品を管理する。</li> <li>・体調が悪い、病気や怪我がある場合は、授業前に必ず申し出ること。</li> </ul>					
テキスト	適時資料配布					
参考書	文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm</a>					
その他	【オフィスワ-】 授業の前後					

科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
情報処理研究 I	演習	2	1年次 後期	選択		津田 敏
授業の到達目標	1. こども園にはどのような事務処理があり事務処理が行われているか理解する。 2. こども園の事務処理を効率的に行えるように考え工夫する。 3. 作成した事務ファイルを発表し、批評・評価を得て効率的な事務処理能力を獲得する。					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術及び実践力を修得している。					
授業の概要	こども園の事務をどうICTを活用すれば効率的に処理ができることを考え取り組む。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	こども園の事務にはどのような事務があるか、行われているかを調べる。				
	2	事務処理に使用する表計算処理の使用関数について理解する①				
	3	事務処理に使用する表計算処理の使用関数について理解する②				
	4	事務処理に使用する表計算処理の使用関数について理解する③				
	5	こども園の事務の中で非効率的な事務2つ I・II をあげ、効率化を考える。				
	6	効率化へ向けた事務処理 I ①				
	7	効率化へ向けた事務処理 I ②				
	8	効率化へ向けた事務処理 I ③				
	9	効率化へ向けた事務処理 I ④				
	10	作成した事務処理の発表、批評・評価、完成事務				
	11	効率化へ向けた事務処理 II ①				
	12	効率化へ向けた事務処理 II ②				
	13	効率化へ向けた事務処理 II ③				
	14	効率化へ向けた事務処理 II ④				
15	作成した事務処理の発表、批評・評価、完成事務					
授業の評価	「試験」： 「平均点」：作成ファイル(35%)×2=(70%) 問題意識15% 理解15%= (30%) 「その他」：					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務の調べ学習についてアドバイスする。</li> <li>・事例的な表計算処理の関数等の理解不足について指摘し補う。</li> <li>・授業内容に関する質問については個別に質問を受け回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	予習：作成表について事前に使用する関数等をチェックしておくこと。 復習：自主学習支援としてGoogle Classroomに参考表を掲載するので理解を深めること。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（135分）事後学習（135分）					
履修上の注意	こども園で使用する事務処理の基礎能力の習得として理解し、教員生活で活かせるように取り組むこと。					
テキスト						
参考書	『Microsoft Excel クイックマスター 2016 応用編』ウイネット2019年					
その他	【オプショナル】 授業の前後及びGoogle Classroom					

科目名/カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
修了研究 I-1	演習	6	1年次 通期	選択		中重 直俊 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 研究論文の書き方を理解する 2. 関心のある事項から各自テーマを決め、研究の目的、方法、具体的な実施計画を作成する 3. 第三者に伝わるようにプレゼンテーションを行う					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	前期は、研究論文の書き方について、とくにテーマ設定や論文の構成についてテキストを中心に学んでいく。それぞれが関心のあるテーマに基づいた先行研究を読み、担当ごとにレジュメにまとめ、調査方法や研究手段などを確認する。					
授業計画	回数	授業内容				
	1	オリエンテーション				
	2	研究の意義				
	3	研究の計画				
	4	研究方法				
	5	テーマの設定				
	6	テーマに関係する先行研究調査 1				
	7	テーマに関係する先行研究調査 2				
	8	先行研究調査の発表				
	9	研究の目的				
	10	予備研究の方法 1				
	11	予備研究の方法 2				
	12	予備調査の実施				
	13	予備調査のまとめ				
	14	倫理的配慮と情報保護について				
15	研究論文の構成について					
授業の評価	「試験」：プレゼンテーション（50%） 「平常点」：出席状況・授業態度（40%） 「その他」：課題（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート等の課題は、コメントを付して返却する。</li> <li>授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。</li> </ul>					
事前・事後の学習等の内容	次回までの課題を提示するので、しっかりと予習・調査を行うこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（225分）事後学習（225分）					
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること					
テキスト	『子ども理解のメソドロジー』中坪史典 著 ナカニシヤ出版					
参考書	必要に応じて配布する					
その他	【オフィスワーカー】水曜の昼休み 中重研究室					



科目名／カリキュラムNO.	授業形態	単位数	開講時期	卒業必・選	免許・資格	担当者名
修了研究 I-2	演習	6	1年次 通期	選択		中重 直俊 (実務家教員)
授業の到達目標	1. 研究論文の書き方を理解する 2. 関心のある事項から各自テーマを決め、研究の目的、方法、具体的な実施計画を作成する 3. 第三者に伝わるようにプレゼンテーションを行う					
学位授与の方針との関連	より高度の幼児教育に関する専門的知識・技術を習得している。					
授業の概要	後期は、各自関心のあるテーマを決め、終了研究論文の研究計画を作成するとともに、調査方法や分析方法をプレゼンテーションやディスカッションをしながら検討し、中間発表を経て自らの調査を進める。					
授業計画	回数	授業内容				
	16	研究テーマの決定				
	17	研究計画の作成 1				
	18	研究計画の作成 2				
	19	研究計画の発表				
	20	研究調査 1				
	21	研究調査 2				
	22	研究調査の発表				
	23	実践記録法 1				
	24	実践記録法 2				
	25	実践記録法の発表				
	26	調査・記録の集計 1				
	27	調査・記録の集計 2				
	28	考察・反省				
29	プレゼンテーションの作成					
30	修了研究論文の中間発表					
授業の評価	「試験」：プレゼンテーション（50%） 「平常点」：出席状況・授業態度（40%） 「その他」：課題（10%）					
課題（レポート等）のフィードバック	・レポート等の課題は、コメントを付して返却する。 ・授業内容に関する質問については、個別又は全体に回答する。					
事前・事後の学習等の内容	次回までの課題を提示するので、しっかりと予習・調査を行うこと。					
事前・事後の学習に必要な時間	1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。事前学習（225分）事後学習（225分）					
履修上の注意	課題の提出期限は必ず守ること					
テキスト	『子ども理解のメソドロジー』中坪史典 著 ナカニシヤ出版					
参考書	必要に応じて配布する					
その他	【オプショナル】水曜の昼休み 中重研究室					